

事例38 単元「PROGRAM 5 由紀、シアトルに行く。」

## 英語で頼んだことが友達に伝わって、応じてくれた

英語 第1学年

野々市町立布水中学校

### 1 事例の概要

本校は、平成20年度より県の児童生徒の「活用力」向上モデル事業の指定を受け、「自ら学び、自己を高める生徒の育成 ～基礎的、基本的な知識・技能の習得を図り、「生きる力」を育む授業づくり～」をテーマとして研究実践を進めている。教科としても、この方針に沿って研究を進めてきた。

本年度の基礎学力調査結果の分析を踏まえると、英語科では書くことの領域における表現の能力に関する問題、知識・理解に関する問題について課題が見られた。また、1年生の授業においては、落ち着いた学習態度でペア活動や音読発表には前向きに取り組むが、英語らしい発音やイントネーションで表現したり気持ちを込めて表現したりすることが不十分である。それは関心・意欲・態度に課題があると同時に、言語材料の定着や基本的な技能の定着に課題があるためである。

このような現状分析のもと、英語科では基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る学習活動を工夫するとともに、これらを活用して意思の伝達を行う言語活動と関連させながら、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得をめざすこととした。

A-1 学校研究の概要

A-2 研究の構想図

### 2 実践内容

#### (1) 単元の目標

- ・飛行機の中や空港での対話のロールプレイングにおいてペアで協力しながら積極的に取り組もうとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・発音に注意して英文の内容が伝わるように音読したり、命令文や疑問詞で始まる疑問文を状況に応じて正しく言ったりできる。(表現の能力)
- ・話し手の指示や尋ねたい内容を正しく理解し、適切に応じることができる。(理解の能力)
- ・命令文や位置を表す前置詞の形・意味・用法がわかる。(言語や文化についての知識・理解)

#### (2) 指導上の工夫点(視点)

##### ① 「学ぶ意欲を高める」

- ・授業導入時における工夫  
教材の提示方法を工夫し、生徒の意欲を喚起する。
- ・肯定的な声かけ  
生徒の意欲的な姿勢を惜しみなくほめる。
- ・「がんばりシール」
- ・生徒作品を用いた学習の展開
- ・生徒の思考の流れを見通した授業の組み立て  
活発な時間と静かな時間を意識して作る。

##### ② 「学びの共同体」

- ・掲示の工夫  
単元の学習の流れがわかるように、生徒の作品を掲示する。
- ・小グループでの話し合い

3、4人のグループで意見を発表する形態を取り入れ、慣れ親しませる。

・自己評価表の導入

授業評価をし、自己の変容を見つめるためのふり返し学習を行う。

③「基礎の定着・基本の理解を徹底し、活用・応用をはかる」

・定期的な小テストの実施

・ペア学習の導入

・自己表現活動の充実

・生徒相互の学習理解の確認（プチティーチャー、ミニ先生）

**B-1 指導法の工夫**

**3 指導の実際**

過程	配時	生徒の活動 ・予想される生徒の反応	教師の指導、支援(●)と評価(数)
練習	10分	4. 命令文を練習する。 ①既習動詞をくり返し練習する。 ・単語がたくさん出てくるので、発音に自信がない。 ②命令文、否定命令文を用いて、状況にあった表現方法ができるようにする。 ・どんな言い方をすればよいかな。 ・動詞は強めた方がよさそうだ。 教材の提示方法の工夫	・リピートさせたり、絵をキューとして言わせたりするなど、活動に変化をつける。 命令文が正しく伝わるように適切に話している。(表現) ・please を加えているがぶっきらぼうな言い方と please はないけれど控えめな言い方を聞かせて比較・対照させ、言語形式だけでなく言い方も大切だとわかるようにする。 ・全体練習からペア練習へと移行する。
発展応用	15分	5. 命令文を活用して、自己表現をする。 ・ペアの友達と協力して、気持ちを込めてお互いに指示を出し合おう。	ペア活動・自己表現活動の充実 ・既習や新出の語彙を活用させる。 ・よい点を生徒に指摘させ、教師自らも認めるようにする。

**C-1 指導案**

**C-2 研究授業の様子**

**C-3 授業整理会の様子**

**4 成果と課題**

(1) 成果

- ・生徒授業アンケートの結果分析を丁寧に行い、次の授業づくりに生かすことで、生徒の学習意欲を高めたり、教師の授業改善につながるような学習展開を進めることができた。
- ・相手に理解してもらえるようにわかりやすく話す意識は芽生えてきた。
- ・新出の文法事項への系統を踏まえた導入を工夫したことによって、学習している単元で習った文法事項ばかりでなく、既習の表現も活用しようとする生徒が出てきた。

(2) 課題

- ・単元指導計画、板書計画をさらに思考の流れに沿って構築する必要がある。
- ・思考力・判断力・表現力などをさらに高めるため、今以上に教師が意図的に思考・判断・表現する場面を設定し、考えさせる場をもつ必要がある。
- ・言語材料の習得を確実なものにするために、それらを活用する言語活動のより一層の工夫が求められる。
- ・まとまりのある英文を即興的に、あるいは短時間で理解したり、表現したりすることができるよう、言語活動の質を徐々に向上しなくてはならない。
- ・自己表現活動は充実してきたが、コミュニケーション能力を育成するためには、目的意識や相手意識などの言語意識をさらに高めなくてはならない。